



第2回医療事故予防研修



薬剤科 竹内 弘

2月4日（木）あじさい館多目的室にて、平成27年度第2回医療事故予防研修が行われ、多くの職員が参加し、熱心に耳を傾けました。

今回は新葛飾病院医療安全対策室の豊田郁子先生から「医療事故に学ぶ安全文化の醸成」をテーマにご講義頂きました。先生ご自身の最愛の息子さんを医療事故でなくされた辛い体験、さらにその経験をもとに現在行っている医療対話推進者としての大変興味深いお話でした。

私たち医療の現場で事故を完全に「0」にすることは残念ながら難しいことです。しかし起きてしまったことに対する医療従事者、病院の対応によって、その先のご家族の気持ちは大きく異なるということ、今回の研修で改めて感じました。「何が起きたのかを知りたい」、「正直な話し合いをしたい」との思いは全くその通りであろうと思います。事実を覆い隠すことは絶対に許されないことです。また、医療事故に関わった当事者に対する精神的ケア等のサポートも忘れてはならないことと考えます。

私たちは常に「命を守る職務」に就いているという自覚をもって仕事をすることで、安全文化が醸成されていくものと考えました。

平成27年度東京都看護協会看護研究学会



4-2病棟 看護師 尾崎 麻里子

1月23日（土）日本教育会館にて「平成27年度東京都看護協会看護研究学会」が開催されました。「マイタウン TOKYO Jastな都市型看護を目指します！ ケアのバトンの渡し方・渡され方」をテーマとして、病院から病院・病院から在宅への連携について現状と課題を検討するという内容でした。

今回、私たちは重症心身障害児者プロフェッショナルナース育成研修において取り組んだ「重症心身障害児者の耳介の発赤への予防的ケアを探る」という演題の示説発表を行いました。質疑応答では、経験年数によりケア内容の変化があるのか等の質問を受けました。同じ示説発表のコーナーには、前述の研修でお世話になった研修担当の方にお逢いすることができ、励ましの言葉を頂くことができました。

基調講演「バトンをつなぐチームワークとコミュニケーション」では、元オリンピック選手の朝原宣治氏からの講演がありました。選手時代やオリンピック当時のことを織り交ぜ、リレーのチームリーダーとしての役割やメンバーとして果たすべき努めについてなどの内容であり、興味深いものでした。自身の最大限の力を発揮できるよう集中力を高め、メンバーを信頼し、バトンを渡していくという点においては、看護の連携においても同じことが言えるのではないかと、改めて感じました。

今回の研修参加にあたり、多くの方々にご指導いただいたことを心より感謝申し上げます。

冬の企画 **アリスの不思議な世界**

指導科 亀岡 淳一



2月16日（火）指導科行事「冬の企画」を実施しました。今回のテーマは「アリスの不思議な世界」と称して、視覚・嗅覚・触覚を色々な方法で刺激して楽しむことでした。

会場に入ると華やかなピエロがお出迎え。でもフワフワした物が顔を撫でたり、お菓子箱からはスライムが出てきたりしてビックリ！さらにジュースだと思ったら、ミントの匂いがして「？」顔になっていました。続いて鏡の間です。ふたを上げると鏡の中に自分の顔と花火模様が見えたり、凹凸鏡で顔が延び

たり広がったり、壁に自分の姿が逆さまに映っていたりと、不思議な世界にビックリ顔でした。次に進むと花の妖精と化け猫の額縁が待っていました。額縁に入った利用者さんを写すと、利用者さんも妖精になったり猫に紅茶をかけられている姿に見えるのです。利用者さんはいつもの撮影だと思っているようで、周りのはしゃぎ振りに「？」顔になっていました。次は大コマ回しです。色々な柄の大コマのおもりを落とすと回転し、柄の色が変化します。うまく回ると歓声があがっていました。またコマと風車作りコーナーでは、自分でコマに色を塗ったり風車を作ったりして、回して色の変化を楽しみました。最後は暗闇の中で様々な光の模様にあふれた「光のへや」です。懐中電灯で辺りを照らすと、隠れていたキャラが光り驚きの声が上がっていました。

普段の生活にはない視覚・嗅覚・触覚の刺激に、皆さん驚いたり不思議そうな顔をしたりと楽しい時間を過ごしていました。



3-1 節分「鬼退治ゲーム」

3-1病棟 保育士 柏木 奈穂美

「鬼は～外！」「福は～内！」今年もみんなが元気に過ごせるよう、福男・福女に豆まきをしてもらい、節分行事「鬼退治ゲーム」をはじめました。

デイルームに出られる利用者の方はデイルームで、出られない利用者の方の所にも鬼を出張させ、みんなに鬼を退治してもらいました。

ゲームは、大きな鬼めがけて羽子板でボールを打ち込みます。大きな口にボールが入ると「ガオ～」と大きな声をあげ金棒を振り上げ鬼は降参します。ねらい通りにボールを命中させ笑顔を見せる方や、ボールを命中することができずに何度もチャレンジする方もいました。

みんなで鬼を退治できたので、きっと元気に一年を過ごすことができますね！！



5-B 世界のスパ

5-B病棟 保育士 山田 志津子



「世界のスパ」は5-B病棟では初の試みでした。スパと聞いて思い出すのは・・・「温泉・リラックス」かしら。普段体験できない方法でリラックスしてみよう！と・・・取り寄せたものは「泥パック」（フランス製）「せっけん粘土」「エステゼリー」の3種類です。手浴・足浴で体験しました。

それぞれの場面を紹介します。まずは「エステゼリー」。薄暗い中でゼリー状になったお湯に手や足を入れると利用者の皆さんは驚いたり、力が入ったりと反応がありましたが、徐々に力が抜け穏やかな表情になっていました。「泥パック」は、手の甲や足に塗り、あまり感じたことの無い感触に気持ち良さそうな表情や不思議そうな表情を見せてくれました。そして「石鹸粘土」。アナ雪に出てくるオラフの形をした粘土状の可愛い石鹸を少しずつ崩し泡だて、いい香りの泡の中へ手や足をそっと入れると笑顔や泡をじっと眺める様子が見られました。取り寄せたものがフランス製だったので今回はフランスの気分をと・・・病棟内は赤・青・白とトリコロールカラーに装飾しました。BGMはフランス人のアーティストの歌声という雰囲気はもうパリ?かも・・・

女子力がアップした1日でした。



「認定パートナーズ」ふれあいを開催

事務室 古本 恭子



2月10日（水）2階病棟の浴室において、「認定パートナーズ」とのふれ合いが行われました。「認定パートナーズ」とは、JAHA（日本動物病院協会）の試験に合格した犬と飼い主のペアのことを言い、アニマルセラピー活動を行う犬たちの中でも、模範となって活躍しています。当センターでは、主にあじさい館での「動物とふれあう会」に参加できない利用者の方を対象に、「認定パートナーズ」とのふれ合いを実施しています。



今回センターに来てくれたのは、犬のクレールとその飼い主の方です。クレールは、ビション・フリーゼというフランス原産の犬で、人懐っこい性格をしています。ふれあいタイムが始まると、ふわふわのクレールに触れた利用者の方たちは、喜んでいる表情やリラックスした表情を浮かべ、ふれ合いを楽しんでいる様子でした。

今後も、利用者の情緒の安定と生活の質の向上を目指し、動物とのふれ合い活動を実施していきます。



小児総合医療センターとの連携を推進～退院に向けたケース会議を開催～

医療社会事業担当係 工藤 順子

当センターでは、小児総合医療センターを退院して直接在宅での生活を送ることが困難な御家庭を対象に、当センターでの入院、レスパイト等を活用しながら、介助方法・医療ケア技術等を学んでいただき、自信をもって在宅生活が送れるような在宅移行支援を4年前から実施しています。

このたび4例目の受け入れとして、第一回の退院支援に向けた会議を開催しました。会議には地元自治体の保健センター保健師、訪問看護事業所の看護師、当センター小児科部長、病棟主治医、看護担当科長、病棟看護師等が参加し、情報交換を行いました。現在は多職種が連携して対象者の日常の支援と家族の精神面も含めたケアをしています。これから試験外泊などで徐々に自宅で過ごす日数を増やし、在宅生活に円滑に移行できるよう支援していくことが目標です。正式な退院後は当センターの短期入所利用を希望されているため、地域と連携し長い目で支え、在宅生活を見守っていきたいと思っています。

看護学生向け合同就職説明会に出展しました

事務室 古本 恭子



2月6日(土)東京ビッグサイトにおいて開催された、看護学生等を対象とした合同就職説明会に出展しました。当日、会場には関東内外から1,500人を超える来場者があり、活気にあふれていました。

当センターのブースも華やかに飾り付け、今年度新しく製作したグッズを活用しながら呼び込みを行いました。60名以上の方と面談をすることができ、「『療育』という分野を初めて知り、興味がわいた」「じっくり一人ひとりの利用者を大切にしている看護を行っており、自分のやりたかった看護だと感じた」といった声が聞かれました。また、後日見学の予約をしてくれた学生もいました。

今後も、看護学生等に療育の魅力やセンターで働くやりがいを伝え、一人でも多くの就職につなげられるよう、積極的に活動していきます。



メタセこいあん、くぬぎちゃんも大活躍

認定看護師紹介

第4回 慢性呼吸器疾患看護

慢性呼吸器疾患看護認定看護師 埜 健

慢性呼吸器疾患看護認定看護師の埜です。

長い名称ですが、ひと言で言いますと、長い期間呼吸の障害で苦しい思いをされている方に、集中的に関わらせて頂く専門資格です。例えば、胸や脊柱の変形がある方は、肺が圧迫されて上手く呼吸をすることが難しいですが、そういった場合に、どうすればより楽に呼吸ができるかという事で関わらせて頂いています。病棟に所属していますが、毎月1回は、院内の他病棟を回って利用者の方を見せて頂いています。また、他の重症心身障害児(者)施設で働く同じ分野の認定看護師とも連絡を取りながら活動しております。院内で見かけたとき、呼吸についての疑問がありましたら気軽に声をかけて頂けますと嬉しいです。 よろしくお願いたします。

〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/>

fuchuryo/index.html